28C12

公益財団法人　立松財団　御中

平成　29年　2月　21日
所属：

氏名 Emanuel LELEITO 印

平成　28 年度 助成 海外調査研究終了報告書

※ゴシック文字で記入下さい。

渡航目的	世界最大の教育関連国際学術会議「International Conference on Education」で 名古屋大学の斬新的な「留学生向け防災教育」について発表するとともに情報収集活動を行う。
渡航日程と海外での成果（発表・調査など）	**渡航日程（期間：2017年　1月　2日　～　2017年　1月　7日）** ・ 1月2日：日本から出発～アメリカ（ハワイ州）到着 ・ 1月3日～6日：国際教育会議「International Conference on Education」参加（発表：1月4日） ・ 1月7日：アメリカ出発～日本到着 **成果：** 2015年の第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」は世界各国の今後の防災関連行動指針をまとめており，防災教育は最も重要な柱の一つとして取り上げられている。そして，世界各地で行われている関連研究や優れた取り組み(Good Practice)の世界発信を求めている。これは国境を問わない自然災害に対する相互学習の観点からも意義の高いものとされている。 今回の国際教育会議「International Conference on Education」には世界各地の大学等で教育分野やその関連分野に携わっている1300名以上の学者・専門家が集まった。会議では名古屋大学で行っている「防災と問題発見解決型学習」の取り組みについて発表した。本学術会議の焦点は「教育」だったが，参加者の多くは「防災教育」というてテーマにはあまり関わっていなかった。参加者の多くの記憶には東日本大震災のことはまだ新しく，質疑応答の時間（約10分）は活発な議論がありました。東日本大震災では事前の「防災教育の取り組み」が沢山の命を救ったという事例を示しながら，世界をリードする日本の防災技術についても紹介初回しました。また，参加者の多くは長年教育に従事してきたベテランであり，大学での防災教育に役立つ教育手法の改良方法等の助言をいただいた。それらを今後の防災教育活動に取り入れていきたいと考えている。
研究内容の概要	本研究は，防災教育を受け身の教育から主体的な学習（能動的学習）へと発展させ，そして学生の学習意欲の向上に貢献するとともに，実社会の問題解決ができる「人材育成」という観点から産業社会的にも意義のある防災教育手法の確立を目指している。 2014年度から，名古屋大学では申請者が担当する留学生向け単位取得可能な防災授業が開始された。これは日本の大学ではまだ珍しいものであり，教育方法についても先駆的なものを提案してきた。例えば2014年度は，情報技術(ICT)を活用して東北大学と名古屋大学の教室をつなぎ，大学間連携による留学生の防災教育の可能性を示した。この活動は既に学術論文で報告しており，国連国際防災戦略事務局の情報発信ネットワークでもこの取り組みは公開されている。 今回の国際学術会議論文（と口頭発表）は，上記の留学生向け防災教育活動に取り入れた「問題発見解決型学習方法」に焦点を当てた。また，「問題発見解決型学習方法」の中核として，学生個人またはグループでの体系的な問題解決プロセスを支援する手法として，創造的な問題解決手法(TRIZ)の教育への取り入れ方についても紹介した。留学生たちが防災関連の実社会問題を見つけ，社会実装できるアイデア（政策又は物）を考案し，大学内の研究室または地域行政や企業と連携してそのアイデアの実現を目指す過程で防災知識を取得する。単に「防災教育」を目的にせず，留学生達が社会実装できるアイデアを作り上げていく過程で自らの防災意識を高める。

提出期限：帰国後すみやかに助成金の「必要経費使途明細書」「領収書」と合わせて提出下さい。